

3-12 祭り

周囲を山に囲まれた滋賀県は、近江盆地の中央に琵琶湖を抱え、その湖岸部に大津・彦根・長浜・近江八幡など主要な町が発達してきました。特に規模の大きな祭は、こうした湖岸の町で催され、長浜曳山祭、大津曳山祭、日吉山王祭、八幡祭などがそれにあたります。これらの祭礼は、時代とともに変遷を重ねて現在のような形式になったと考えられます。一般に、長浜曳山祭、大津曳山祭、日吉山王祭は、湖国三大祭と呼ばれています。

1. 長浜曳山祭(4月14日～16日)

長濱八幡宮の春の祭礼として行われます。曳山に仕つらえた舞台上で上演される子ども歌舞伎が見所です。曳山には、豪華な彫刻や飾り金具、絵画などが各所に施されるとともに、ベルギー製や中国製の幕で飾り立てられ、人々を驚かせる趣向となっています。曳山の古い形式を残すとされる長刀山と、12基の舞台を



写真3-12-1 長浜曳山祭

持つ曳山から毎年輪番で4基が巡行します。歌舞伎を演じる子どもは、プロの役者から芸を仕込まれ、4月9日の「線香番」でその稽古の成果を披露し、13日の夕刻から自町での狂言が始まります。14日午後八幡宮への登り山や夕渡り、15日朝の長刀組による太刀渡り、八幡宮前での奉納狂言、御旅所への巡行と奉納狂言などさまざまな行事が行われます。長浜市曳山博物館では、祭礼日以外でも実物の曳山や祭りに関する展示を見ることができます。

2. 大津曳山祭

(10月体育の日の前々日、前日)

江戸時代、琵琶湖の水運の港町と東海道の宿場町として繁栄した大津では、その経済力を背景にした曳山祭が始められました。大津祭では、13基の曳山があります。三輪の組み立て式で、豪華な飾り金具や外国製の見送幕などの懸装品けそうひんで飾り立てられ、曳山に人形からくりが



写真3-12-2 大津曳山祭

るのが特徴です。宵宮には会所で人形を飾り、祭囃子まつりばやしを演奏します。本日は曳山が氏子域を巡行し、粽をまき、所望に応じて人形からくりが披露されます。

3. 日吉山王祭(4月12日～15日)

比叡山延暦寺の門前町である坂本の日吉大社の祭礼で、3月の上旬から約一か月半にわたって行われます。東本宮の祭と西本宮の祭が複雑に絡み合いながら、4月12日から15日に中心行事が繰り広げられます。14日には神輿ふなとぎまが神幸しますが、なかでも琵琶湖上に出るの船渡御が行われるのが特徴です。神輿は、御座船にのせられ七本柳の浜から渡御し、唐崎沖で粟津の御供が献納されます。その後、神輿は、比叡社の若宮港から上陸し日吉大社へと還御します。



写真3-12-3 日吉山王祭

4. 近江八幡の火祭

近江八幡市内一円では、日牟礼八幡宮の左義長祭や八幡祭(松明祭)、篠田の花火などそれぞれ特徴的な火祭が行われています。日牟礼八幡宮の左義長祭は、3月の中旬に行われ、旧城下町の各町が毎年趣向を凝らしたダシが作られ奉納されます。4月14日に行われる八幡祭の宵宮は、松明祭とも呼ばれています。葎や菜種がらなどで作られた、形や大きさなども様々な松明が次々に奉火され、夜空を焦がします。

このほか湖辺には、疫神送りであるサンヤレ踊り(草津市)やケンケト祭(守山市、甲賀市、東近江市、竜王町)、大溝祭(高島市)など特徴のある祭が多く伝えられています。

文化財保護課